

人間ドック、脳ドックについて

誠和会

山口 孝弘



健康を守る取り組みを

現在、八街市は国民健康保険加入者に対し、人間ドック、脳ドックの受診費用の一部を補助する制度はないが、全国の多くの市町村では補助を行っている。特定健診が義務化された今、健康に対する関心は大変高くなっており、受診率を高める上でも、また、がんの早期発見という観点からも人間ドック、脳ドックへの補助は有効な手段である。そこで、八街市においても、人間ドック、脳ドックの受診費用の一部を補助する制度ができないか伺う。

成22年度から、がん検診とあわせて受診していた方向で調整しており、健診内容を拡充していくことで、受診率の向上を図りたいと考えていますので、今後の受診状況等を注視しながら、まずは、受診率向上のための方策の1つとして、個別健診の導入についての検討を行い、人間ドックの助成、脳ドックの助成については、その後、検討したいと考えています。

人間ドック、脳ドックの助成について、近隣の市町村の実施状況を伺う。

国保年金課長

千葉 県内 36

市で、人間ドックの実施団体は26団体です。そのうち、脳ドックを併用して助成を行っている団体が8団体、脳ドックのみを助成している団体が3団体です。助成事業をしていない団体は、本市を含め7団体です。

一般的な人間ドックにかかる料金は、

日帰りの人間ドックが3万5千円から5万円程度、脳ドックが2万5千円から5万円程度である。そこで、人間ドック、脳ドックに対する今後の考えについて伺う。

国保年金課長

人間ドック、

脳ドックが、今後の医療費抑制につながることは、十分認識していますが、本市の厳しい国保財政を勘案し、段階的に個別健診を行い、そのデータを吸い上げて特定指導に入るといったことを踏まえて、今後検討したいと考えています。

※その他の質問

子育て家庭優待制度について

自動車体外式除細動器(AED)の貸し出しについて

クリニック募金について

市道114・116・210号線交差点改良事業と信号機の設置について

市道116号線の道路

個人質問

元気のあるまち、心豊かな子どもたちのために

誠和会

林 修三



産業まつりの活性化を

産業まつりを駅前道路から会場までつながる形で開催し、八街農産物(地産地消)の食のコーナーを設置しては如何か。

市長

駅北側から市役所方向へ続く道路を会場に含めることについては、準備の関係から最低でも2日間は通行ができなくなり、駅利用者や周辺にお住まいの方々に、大変不便をおかけするとともに、バス及びタクシー事業者の理解も得なければならない難しい面があることをご理解いただきたいと思えます。

教育長

国民読書年のポスターを既に館内に掲示しています。国民読書年の啓発活動については、広報やちまたや図書館ホームページへの掲載などにより、周知を図っています。また、国民読書年の冠をつける事業については、特に考えていませんが、あらゆる方々が読書の楽しみを広げることができるよう、現在、実施しています。幼児や大人を対象とした、おはなし会や講座の開催、来館が困難な高齢者や児童などへの移動図書館の巡回など、各種事業の一層の推進に努めていきます。

市長

中止にはなりませんが、平成21年度の産業まつりでは、農協青年部と協議をしまして、芋煮を行うということで進んでいました。今後、こういった新たなものの創作を考えていかなければならないと考えています。

読書活動の普及について

図書館におかれては、いろいろな形で努力されていることに敬意を表する。平成22年は国民読書年だということをも市民に啓発し、読書好きの子ども、読書する大人たちをつくる絶好の機会として、啓発活動をお願いしたい。そこで、国民読書年にちなんだ八街市の普及活動としての啓発及び事業について伺う。

市長

街市では大きなイベントであり、会場地で行っているということから、もっと外に広げていくべきだと考える。検討をお願いしたい。また、食のグルメ(地産)を産業まつりでPRしては如何か。

※その他の質問

消防団活動促進について

選挙投票率向上について

総合計画第2次基本計画について

ふれあいバスの今後について